

前眼部形成不全に関する研究へのご協力のお願い

今回、京都府立医科大学は、前眼部形成不全に関する研究を実施いたします。そのため、過去に京都府立医科大学附属病院で前眼部形成不全に関連する診療を受けられた患者さんの診療録を過去にさかのぼって調査させていただきたいと考えています。

研究の名称

「前眼部形成不全の臨床経過に関するレトロスペクティブ調査」

研究責任者

京都府立医科大学 医師 外園 千恵

研究の目的

前眼部形成不全とは先天的に角膜および隅角の形成異常をきたす疾患を指します。

具体的には先天角膜混濁と先天緑内障が含まれます。発症頻度の稀な疾患であり、長期の臨床経過について多数例の報告はほとんどありません。

本研究では前眼部形成不全の臨床経過を後ろ向きに調査し、治療と予後の関係を検討します。

例えば先天角膜混濁には、経過観察中に角膜混濁が改善する場合がありますが、どのような症例で症状の改善傾向を認めるのかを調査し、弱視治療開始の時期や合併症を明らかにすることで、今後の治療方針の決定に役立てることが出来ます。

本研究においてカルテの診療情報を後ろ向きに研究することは、将来の先天角膜混濁疾患の診療において、予後不良因子や予後良好な因子が判明することにつながります。患者本人や家族に対してより詳細な説明ができるようになります。

また、経過の良い症例を増やすことができる可能性があり、意義があると考えます。

研究の方法

・対象となる患者さんについて

平成9年1月1日から平成33年12月31日までの間に、京都府立医科大学眼科で前眼部形成不全の診療を受けられた患者さんが対象となります。

・方法について

1. 登録時の疾患別の割合、視力、年齢、性別などの統計値を算出します。

2. 当院角膜外来・緑内障外来経過観察中の先天角膜混濁の診断を受けられた患者さんのカルテに記載される検査データを取得し、基本情報(先天角膜混濁の病型、年齢、性別、既往症など)の解析を行います。

・資料の管理について

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。

ご自分、あるいはご家族の情報を本研究に登録したくない場合は、平成33年12月31日までに下記連絡先までご連絡ください。なお上記までに申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

ご希望があれば、個人情報の保護及び本研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究計画及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧することができます。その場合は、下記連絡先までご連絡をお願いします。

本研究は、京都府立医科大学医学倫理審査委員会において、適切な研究であると承認されています。この研究計画についてご質問がある場合は下記までご連絡ください。

連絡先

京都府立医科大学 眼科

客員講師・池田陽子

電話：075-251-5578